

東南アジア出張（2019年7～8月）

人事課/国際戦略室 高木宏光

去る7月23日から8月2日までの12日間、日本と東南アジア5ヵ国間の汚水管理に関する国際協力の枠組みAWaP（Asia Wastewater Management Partnership）の運営会議に向けて各国の関連省庁の協力を取り付けるべく、東南アジアの国々を巡ってまいりました。今回は、私が出張で得られた知見、そして訪問した国々の様子（前半）を紹介させていただきます。

◆インドネシア

総人口が世界4位のインドネシアは自動車メーカーにとって非常に重要なマーケットであり、主要各社が工場を構えている事もあって車の交通量が非常に多い国となっております。一方、車間距離を開けない、鬼の車線変更、急停止&連続猛加速の運転文化三重苦も背負っており、不用意な歩行者を懲らしめたいという強い決意も感じます。



ジャカルタ（の道路）



JICA 事務所にて：左から

国交省 久岡推進官

JS 植田室長

JICA 神田調査員

さて、命がけの道路横断によってたどり着いた大使館やJICA事務所ではインドネシアにおける下水道を含む公共インフラ整備の実情について情報交換を行いました。強まる建設業界の外資規制、経済インフラに偏重した公共事業計画、省庁間の協力志向が希薄にして進まない環境インフラ整備、水質悪化に慣れてしまった国民の意識等、下水道整備には高いハードルが見受けられます。しかし、ジャカルタ特別州知事には2030年までにジャカルタの汚水処理率100%を実現するという目標があり、そこへ日本企業を如何にして参画させていくか、大きなポテンシャルも伺えます。

その後、同国の公共事業住宅省（Ministry of Public Works and Housing, MPWH）を訪問し、環境衛生開発局長他へAWaP業務への協力ならびに汚水管理状況の情報提供を要請し、JSの紹介などを行って参りました。局長は特に汚水処理の発展に積極



MPWHでの打合せの様子

的であり、JICAを通じたJSによる建設や維持管理の支援・研修の実施や、バリ島における下水プロジェクトの協力を希望されておりました。そして、AWaP業務への協力の取り付けにつきましては、運営委員会へ技術計画副局長を派遣して頂く事となり、一先ず目標達成という結果となりました。



本格インドネシア料理

ここで仕事の話は一旦おきまして、現地の食事情に目を向けてみましょう。我々は食事においてもインドネシアへの理解を最大限深める為、現地感を強く感じさせるウートゥヤ (OOTUYA) という名前の店を選びました。店名がどのような意味なのか、我々には分かりませんでした。きっとインドネシア文化に縁の深い言葉と確信しております。私はその中で、

トゥリクロズ (TORI KUROZU) という料理を選びました。鶏肉と野菜の揚げ物を酸味のある餡で和えた料理ですが、何故か食べ慣れた味がします。当初は身構えていた食事情ですが、不思議と悩むこともなく、元気にフィリピンへ発ちました。

◆フィリピン

フィリピンでは主に日本の自動車メーカーが中心として生産拠点を設けている事から、根強い日本車人気を感じる一方で、小型貨物車を改造したジプニー (乗合タクシー/写真中央) が独特の交通文化を作り上げております。尚、強引な割り込み、歩行者無視、クラクション連打という地獄の交通事情はインドネシアにも負けておりません。私は信号機が壊れた横断歩道を渡れず、炎天下の交差点直立という苦行を経て、古くからの友人 (熱中症) と感動の再会を果たしました。



マニラ (の道路)

さて、インドネシアから同行している国交省の久岡推進官とフライトの時間が合わず、JS組はフィリピンへ半日遅れての入国となりました。その間、久岡推進官に先行して公共事業高速道路省 (Department of Public Works and Highways, DPWH) とAWaP業務への協力要請の打合せに臨んで頂いておりましたが、AWaPへの参加に署名したDPWHから、AWaP業務の担当はDPWHではないとの主張を受け困惑すると共に、フィリピンにおける行政との交渉の難しさを体感する結果となりました。(なぜAWaPの合意文書に署名をしたのでしょうか?)

その後、JICAのマニラ事務所においてJICA専門家の皆様と状況を整理した所、環境規制を管掌する省庁は環境天然資源省 (Department of Environment and Natural Resources,

DENR)、インフラ整備の大方針を策定するのは国家経済開発庁 (The National Economic and Development Authority, NEDA)、そして NEDA へ公共事業に関する要望を出すのが州政府という事が判明し、今後はこの三者へ働きかけを検討する必要がある事が分かりました。尚、フィリピンにおいても 2030 年までに大規模都市の下水道整備を完了させる、という大統領発令が漏れ聞こえている事もあり、インドネシア同様に下水道インフラ整備のニーズの高い事が伺えます。これらのインフラ需要とどう向き合っていくのか、どのチャンネルから攻めていくのか、新たな課題が見えた訪問となりました。



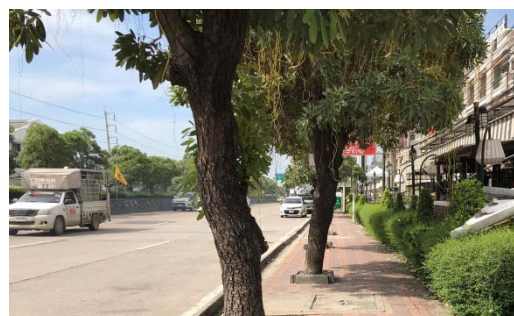
本格フィリピン料理

フィリピン政府との交渉結果は芳しくありませんでしたが、ここで気持ちを切り替え、現地での食事情を紹介させていただきます。フィリピンにおいても現地の理解を深める為、我々はなるべくエスニックな雰囲気のお店を探し、スパイシーな香りが漂う木造りの店を選びました。入店後、店の名前を確認すると店名に「TOKYO CAMP CURRY」、副題に「Tokyo No. 1 Curry shop」というくぐりが見えましたが、何れも長年東京に住ん

でいる我々に初耳でしたので、紛らわしいですが、恐らくここは現地料理のお店です。気を取り直して、料理を注文します。緩いカレーの様な料理が運ばれてきます。不思議なことに、東南アジアに来てから馴染みのある味にばかり触れている気がします。味は日本のカレーに近かったですが、これまでの情報を総合すると別物ですので、我々はフィリピンの神髄を味わう事に成功したと判断いたします。

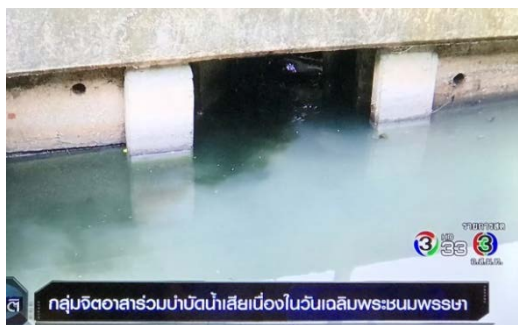
◆タイ (おまけ)

次の目的地はミャンマーでしたが、フィリピンからミャンマーへはタイを経由する必要がある、ミャンマーから出張を始める他の方々と合流するまでの1日間、タイにてお暇を頂きました。タイはインドネシアに次ぐ東南アジアの自動車輸出の雄ですが、運転は(比較的)穏やかです。宗教的な事柄については疎い私ですが、仏教的な穏やかさの影響でしょうか、前二国との違いを感じました。しかし、その後タクシーで若干ぼったくられましたので、撤回いたします。



バンコク (の道路)

何故私は道路ばかり撮るのか



川に流入する汚水

ホテルに到着し、テレビをつけますと、現地の河川に汚水が流入し問題となっている様子が報道されておりました。先のインドネシアでは国民が水質悪化に慣れてしまい、汚水管理政策に対する国民や省庁の関心の低さが問題とされておりましたが、報道からはタイ国民の環境問題、とりわけ水質悪化に対する官民両方の関心の高さが伺えました。